

「クリスマスカラーに見るイエスの愛」

2022年12月

高校教頭 慎 繁範

人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。 (ローマの信徒への手紙 3章23～25節)

クリスマスの季節を迎えました。街中がクリスマスの飾り付けやイルミネーションで華やかになり、特別な雰囲気にも包まれています。クリスマスツリーやクリスマスリースなどでよく使われる緑、赤の配色は、クリスマスカラーと言われ、特別な意味を持っています。赤は“愛”“寛容”を表していると言われていますが、それ以外にも“血”を表しているとも言われています。“クリスマス”と“血”、一体どういうつながりがあるのでしょうか。

血が赤いのは、ヘモグロビンという色素が含まれているからです。ヘモグロビンは酸素と結びつくことでより鮮やかな赤い色になります。そして、身体中の細胞に必要な酸素を届けているのです。血がなくなれば、私たちは生きていくことができません。血は命そのものです。

さて、旧約聖書の中には、神様が人間に守るよう定められた律法とよばれる規則が書かれています。有名なものは、モーセの十戒です。偶像を作ってはならない、父母を敬いなさい、殺人をしてはいけないなどです。それだけではなく、旧約聖書には613もの律法があります。人はこれらの律法を守ることで神に近づくことができるとされていました。ただ、613もの律法のすべてを守ることは不可能です。人にはもともと罪深い性質があるからです。そのため、旧約聖書の時代には、1年に1回、人々の贖罪のために、家畜を殺して、その血を流す儀式が行われていたのです。人の罪は善い行いをすることによっても償うことはできず、命で贖う必要があるのです。

新約聖書の中には、イエスが613ある律法をたった2つに集約する様子が書かれています。あるとき、律法学者の一人が、イエスのもとに来て「神の律法の中で、どれが一番大切なのか」と聞きました。律法学者は律法を隅々まで研究していた人たちで、イエスを試そうとして質問したのです。イエスは聖書を引用しながら即答しました。「第一の戒めはこれです。『聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』 第二の戒めはこれです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』 これらよりも重要な命令は、ほかにありません」(マルコの福音書12章29節～31節) イエスは神と人とを愛することによって、律法は全うされることを示されたのです。

イエスは神を愛し、神の思いと一つになることを望まれ、ご自身には全く罪がないにも関わらず、すべての人の罪の贖いのために、十字架に架かることを選択されました。十字架は古代ローマにおいて用いられていた、とても残酷な死刑の道具です。手や足に釘打たれ、十字架上で流したイエスの赤い血によって、私達の罪が贖われたのです。旧約時代の家畜の血による不完全な贖いではなく、完全な贖いです。これにより、十字架は神と人とをつなぐ架け橋となりました。十字架を通して、神の愛を受け取った人は、隣人も愛することができるようになるのです。

クリスマスはイエス・キリストの降誕をお祝いすると同時に、イエスがすべての人ための“なだめの供え物”としてお生まれになったことを覚えるときでもあるのです。クリスマスカラーの赤を見るたびに、イエスの愛を思い出してください。